

第47回日本赤十字社医学会総会報告

福井赤十字病院 石田 智広

平成23年10月20（木）、21日（金）の2日間に涉って、福井市の福井フェニックスプラザと福井市体育館において「第47回日本赤十字社医学会総会」が盛況に開催されました。時期的にはあと2週間もすれば冬の味覚「越前ガニ」の解禁日なのに、食べたかったなあとの声がちらほらしていました。



さて、今年の学会テーマは「赤十字の明日を育てる 健康長寿日本の中で」を基に、全国赤十字施設から1,300名が参加登録され、当初心配していた「田舎県開催であるために参加者不足があるのでは」との不安はいとも簡単に払拭されました。遠路はるばるお越しいただきました皆様には深く御礼申し上げます。

プログラムの中で注目を集めたセッションは「災害救護」分野で79演題の発表があり、シンポジウムの「未曾有の災害救護活動 赤十字が担った役割」では、東日本大震災の第一線で救護活動を担った医師や看護師が登壇され、参加者からは熱い思いの質問が相次ぎました。

市民公開講座では「人間を救うのは人間だ。～東日本・ハイチ大震災での赤十字救護活動～」が報告され、約700人が参加しました。一般の方々に赤十字の救護活動に対して共感してもらえるよう働き掛けるとともに、今後の活動に対する理解を深める場となったのではないのでしょうか。

演題総数では660題を超え過去最多となり、当番県としては嬉しい悲鳴を上げました。その中で、放射線技術関連は数的には少々寂しい気が致しますが20演題を超える応募を受け、プログラムや演題振り分けと共に座長依頼をお願いする事になりました。発表内容は多分野であるため座長選出の難航が予想されましたが、3施設にお願いしましたところ、いずれも快くご返事を頂きました。紙面をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。

医学総会報告という事で、放射線技術部門のプログラムと熱い発表会場風景を収めましたので併せて掲載致します。なお、放射線技術部門外へ応募された技師の方もいましたが、掲載は敢えて省かせて頂きました。（申し訳ございませんがご容赦をお願いします）

来年は香川県の高松赤十字病院が当番県となって開催されます。今回は今年を越える我々放射線技師からの演題発表を期待すると共に、さらに日赤医学会総会が盛大に開催される事を願ひまして「第 47 回日本赤十字社医学会総会」の報告とさせていただきます。

【放射線技術部門】

<口述>10/20 11:16-12:04 座長・河本 勲則 第一技術課 課長補佐 (京都第2赤十字)

演題名	施設	氏名
NICU 病室撮影における FCR 画像処理パラメータの最適化	秋田	奥 駿介
当院における FPD-TV 装置 2 社の使用経験及び性能評価について	旭川	浜田 康介
冠動脈 CT での呼吸停止不良時に対する単一心拍画像再構成の有用性	名古屋第一	西村 憲治
当院放射線科部での QC 活動報告-時間外 CT 検査での技術向上にむけて	山田	松井 沙紀
CT 画像を用いた脳血流シンチにおける各補正	福岡	酒井 昭宏
シリンジ分割法での 99mTc-ECD-RVR 法における投与量のばらつき補正法について	山田	小林 篤

<ポスター>10/20 16:45-17:45 座長・古東 正宜 技師長 (神戸赤十字)

演題名	施設	氏名
超音波検査にて経過観察した小児の急性巣状細菌性腎炎の 1 例	山田	北出 明
X線透視検査における放射線防護カーテンの有用性	山田	田仲 梢
当院における一時立入者の職業被ばくについて	伊達	福岡 深治
手関節撮像における IDEAL 法至適条件の検討	飯山	齋藤 孝明
3D-STIR(SPACE)条件設定の検討	大田原	加藤 美和
東日本大震災時の放射線部の対応～問題点と対策～	石巻	大久保 匠
東日本大震災時の放射線部の対応～発生直後から安定期まで～	石巻	佐藤 菜穂子

<ポスター>10/20 16:45-17:45 座長・広瀬 正 係長 (富山赤十字)

演題名	施設	氏名
医用モニタの輝度と使用時間に対する初期評価	神戸	辻居 賢一
当院におけるデジタル保管画像のセーフティマネージメント	長崎原爆諫早	大町 繁美
異なる 2 機種のマモングラフィ装置におけるポジショニングの比較検討	松山	高橋 なつみ
当院における乳腺ステレオガイド下フックワイヤ挿入の現状	大田原	諏佐 裕美
始業点検における X 線エネルギーと平坦度の関係について	広島	渡邊 良彦
放射線治療患者用パンフレット作成による患者への説明内容の統一	武蔵野	藤田 寛之

